高蔵寺どんぐりｓ

ふれあいだより

NO 139

2023. 10. 1

ＮＰＯ法人　高蔵寺どんぐりｓ発行（☎090-1566-7767）

9月の「ドングリsカフェ」

高森山で草木の活用術を学習

「心おどる草木の活用術」と題した9月16日の「どんぐりｓカフェ」は、高森山を会場に珍しい野外開催となりました。酷暑の中２０人が参加。講師の森林及びハーブインストラクター・半谷美野子さんが、山に生えている植物を指し示しながら薬効や食べ方などを軽快な口調で解説してくださいました＝**写真**。

当初、暑さ対策で時間を短縮するつもりでしたが、次から次へと繰り出される解説はどれも興味深く、参加者が熱心にメモを取ったり、質問したりと盛り上がり、結局たっぷり2時間半の講演となりました。

セイタカアワダチソウが、実は虫媒花で花粉症の原因とならず、大変薬効がありあせもに効く。煮出してお風呂に入れたりお茶にしても良い。サルトリイバラの名の由来は、猿をトゲで絡め捕るところから。また別名のサンキライ(山帰来)は、これを食べて山から無事に帰れた事から。抗菌、抗酸化作用があるため昔から食べ物を包むなど使用されている。某和菓子屋さんの麩饅頭〝サンキラ〟もこの葉が使われている、などなど楽しくためになる盛り沢山の観察会となりました。　（**作本　あゆみ**）

どんぐりｓから

●地球温暖化による異常気象か。今年の暑さは度を越していた。原則毎月第2土曜日の高森山整備活動は熱中症対策に気を遣わされた。途中に給水タイムを設け、ともすると作業に夢中になる高齢者会員の手を止めさせ水を補給させた。●8月12日は市環境保全課や推進員と共に自然環境学習会を開催、小学生7人、保護者5人が参加。高森山の植物を観察しハンモック体験を楽しんだ。同23日はささえ愛センターによるボランティア体験の中学生3人が整備活動に参加、雑木伐採を手伝ってもらった。高森山の魅力が子供たちに広まるのはうれしい。●来年の「ツツジを見よう会」は3月23日（土）と決まった。

住まい困りごと無料相談

●電話または直接面接会場にお越しください
☎080-5297-8956（長谷川）
面接相談会日・会場
10月14日（土）　グルッポふじとう
11月18日（土）　グルッポふじとう
（いずれも13：30～15：30）
○当会会員の一級建築士が相談に応じます。

ハート・ほっと・ルーム

●開催日・会場
10月22日（日）　養楽福祉会たかもり
11月26日（日）　養楽福祉会たかもり
＝春日井市高森台5-6-6
（いずれも13：30～17：00）
参加費；無料
連絡先；☎090-6330-4393(浪川)

モンゴルの旅で抑留者の苦難偲ぶ

忘るまじ！悲惨な戦争

―― 高蔵寺どんぐりｓ理事長　堀内　泰

８月１５日、今年も７８年目の終戦の日がやってきた。例年と違い、文化フォーラム春日井で開催された「シベリア抑留者の展示会」を見に行った。

義父がバイカル湖イルツーク付近に終戦後約４年半抑留、両親や兄姉が樺太大泊（現コルサコフ）からの引揚者、加えてウクライナへの侵略等に鑑み、ロシアの行動を改めて考えてみたかった。抑留者は、約６０万人にものぼり、そのうち望郷を念じながら亡くなられた方は約６万人もいた。

７月にモンゴルを旅する機会があり、ウランバートルにも1万2000人が連行され、1600人が亡くなったことを初めて知った。日本が作った市郊外の慰霊碑で手を合わせたが（**写真**）、その苦難を思うとやりきれなかった。

会場で９８歳の抑留体験者と直接話した内容は、生々しかった。終戦時、帰国させると言いながらマイナス４０度にもなる自動車修理工場に送られ、毎日黒パン一つで働かせられ、飢えと寒さで苦しんだ。疲労や病気等による死亡者は、埋めたくても凍土で難しく、放置されればオオカミの餌食となったようだ。生前義父は、辛いのか当時の話をあまりしなかったが、マイナス４０度以上にならないと伐採作業は中止にならず、想像を絶する寒さだった。ソ連は、抑留者が生きる切なる希望であるダモイ（ロシア語の帰国）を言葉巧みに利用し、長い年月、働かせた。

戦争は悲惨で人と人の殺し合いであり、際限なくエスカレートしていく。戦いが終わり捕虜になると、大半は人権を蹂躙する。話してくれた抑留体験者は、どんなことがあっても戦争をおこしてはならないと強調していたのが印象的だった。改めてむごたらしい戦争に胸を締めつけられた。

平和の維持には、ロシアや北朝鮮等のように武器が止めどなく広がる「核抑止力」では解決しえない。国同士の利害の相違を平和裡に解決するには、粘り強い不断の外交交渉が最も大事である。

私の朝・昼・晩

彼岸花の種

秋になると母に乞われて近くの川岸に彼岸花を摘みに行きます。蕾の彼岸花を２０本ほど大きな花瓶に刺しておくと一週間ほどで満開となり華やかな赤い花で一杯になります。母はこの「華やかさ」が好きだと言います。日本では彼岸花は球根で増えますが移入元の中国では種でも増えると聞きました。この違いは何だろう？　と思い調べた所、染色体の違いだと分かりました。

ふつう植物も動物も染色体は父親と母親の２組です。これを二倍体と言います。これに対して日本の彼岸花の染色体は３組です。これを三倍体と言います。三倍体の植物は種が出来ないか出来ても発芽しません。このため日本の彼岸花は球根でしか増えないという事になります。（日本の彼岸花が三倍体だけになった理由には諸説ある様です）。尚、三倍体の彼岸花でもごく稀に種が出来る個体があるそうです。彼岸花を摘みに行った時にでも種を探してみようと思います。（**石田　友彦**）